

会議議事録(要旨)

会議名	令和7年度第4回 宝塚市自立支援協議会 障害(がい)福祉基金活用検討 会	場所	宝塚市 中央公民館 ホール
		開催日時	令和7年9月22日(月) 14:00 ~ 16:00
出欠者	出席者:委員18名(委員総数20名) 事務局3名 見学12名		
議題	内容		
<p>【協議事項】 課題整理のグルーピングについての質疑応答・意見交換</p>	<p>本検討会は、障害(がい)福祉に関する課題整理と施策検討を目的として開催され、今年度最終回となる本会では、これまでの議論の総括と課題のグルーピング案の最終確認が行われた。事務局からは、これまでの議論により多様な視点から課題が明確化されたことを踏まえ、約40の課題を体系的に整理・グルーピングする意義が示された。これにより、①課題の可視化による論点整理、②施策検討における効率化、③建設的な対話の促進が期待されると説明された。また、本検討会は自立支援協議会の一環として設置され、今後は施策化に向けてさらに議論を深化させる必要があるとされた。</p> <p>主要な論点の一つとして、複数の機能(相談支援、リハビリ、短期入所、レスパイト、地域交流等)を備えた複合施設の整備について、過去に福祉施策の代替案として示された経緯があるが、具体化が進んでいない現状に対し、委員からは検討の遅れや説明不足への指摘があった。今後は必要な機能を精査し、改めて検討する必要性が共有された。</p> <p>また、「居場所」に関する課題では、高齢障害(がい)者に加え、学校卒業後の障害(がい)者の居場所不足が重要課題として追加された。特に、放課後等デイサービス終了後の時間帯や成人後の支援空白により、本人および家族の負担が増大している実態が指摘され、地域における多様な居場所づくりの必要性が議論された。</p> <p>グルーピング案の整理においては、用語や分類についても見直しが行われた。例えば、「施設の充実」は「施設の整備」へ、「連携・ケース管理」は「連携と支援体制強化」へ修正されるなど、実態に即した表現への改善が図られた。また、大項目の一つについては「啓発・地域連携」に加え、「共生社会」の概念を取り入れる方向で整理され、障害(がい)理解や差別解消を包括的に位置づけることとなった。</p> <p>障害(がい)福祉金の廃止や物価高騰により、高齢障害(がい)者の生活が厳しい現状、「経済的支援」に加え、「外出機会の支援(権利の観点を含む)」といった視点も検討された。公共交通機関における精神障害(がい)者へのバス運賃の割引未適用の問題など、人権・社会参加の観点からの課題や、さらに、人材育成や支援の質の確保についても重要な論点として挙げられた。相談支援や就労支援の質のばらつきに対し、研修機能の強化や継続的な検証の仕組みを構築する必要性が共有され、福祉基金の活用可能性についても言及された。</p> <p>資料の構成については、市長報告を見据え、課題・困りごと・解決策の関係を明確に整理し、全体像を俯瞰できる要約資料を作成する必要性が提案された。また、委員から出された多様な意見については取捨選択せず、現場の実態や認識の違いも含めてそのまま提示し、市長に幅広い視点を理解してもらうことが重視された。</p> <p>今後の進め方としては、10月15日に会長および事務局より市長へ報告を行い、その後、行政内部および市民との対話を通じて福祉基金のあり方や具体的施策の方向性を検討していく予定である。また、本検討会についても継続開催の意向が示され、引き続き関係者の意見を踏まえながら課題解決に取り組むことが確認された。</p> <p>最後に、本検討会は計4回の議論を通じて、障害(がい)特性や立場の違いによる認識の差を明らかにするとともに、多様な意見を集約する重要な場となった。今後は、これらの知見を基礎資料として活用し、実効性のある施策へとつなげていくことが期待される。</p>		